

「カマス理論」―水槽にカマスと餌の
小魚を入れて、間をガラスで挟みます。
餌を取ろうと何度もガラスに当たろう
ちにカマスは学習し、ガラスをはずし
ても餌を取ろうとしなくなります。



晴 | 雨 | 計

狭い水槽の中で固
定観念や常識という
枠にとらわれ、見
えない壁を自ら作
って挑戦することを
諦めてしまう、と
いってお話です。

そんな見えない
壁を打破する勢いで、この八月、佐
渡のアイマーク環境とサンアロー化成
の共同開催による地域密着型のインタ
ーンシップ（就業体験）が実施されま
した。参加したのは北海道から沖縄、
そして海外は中国よりの大学生十三
人。佐渡の文化、自然、歴史に触れな

見えない壁

から就業体験し、地元の人や島内経営
者との交流を通して学ぶ十日間のプロ
グラムは、学生たちの「なんとなく」
取り組むつもりだった就職への意識を
変えるきっかけになったそうです。



ナスに捉えがちな見えない壁を乗り
越えた積極的なアプローチ。その気持
ちに応えるかのように、学生たちは発
見を繰り返す、行動することの大切さ
を学び、人との絆を築いていきます。

期間中、彼らと接する機会があった
私も、自らの見えない壁にハッと気
が付き、背筋を伸ばして大きく深呼吸。
地球規模で環境やものつくりを考える
べき時代、見えない壁を乗り越える
勇気をもてば、どこにいても広い世
界が見えてくるに違いないのです。

この制度を昨年から始めたアイマ
ク環境の村山由貴男社長は「カマス理
論」を説きつつ、学生たちにまず佐渡
を知ってもらい、その広い可能性を認
識してほしいと言います。村山さんの
試みは、離島という地理的特徴をマイ
ク環境の村山由貴男社長は「カマス理
論」を説きつつ、学生たちにまず佐渡
を知ってもらい、その広い可能性を認
識してほしいと言います。村山さんの
試みは、離島という地理的特徴をマイ
カマスの役割を担うかもしれません。